



東京部会(第36回)

日時: 2011年3月4日(金) 19:00-21:00

場所: 日本大学経済学部3号館(図書館)4階会議室

参加者: 篠原(同志社大)、加藤(日大)、新井(小石川中等教育)、杉田(千葉西高)、高橋(桜修館中等教育)、升野(大妻中高)、山崎(北海道豊富高:筑波大)、金子(三浦臨海高)、横山(本郷中高)、鈴木(日本経済教育センター)、榊原(東証)、石山(東証)、中沖(清水書院)、宮尾(筑波大)[順不同]

【内容要旨】

1. 篠原先生より、ワークショップについて、すでに2月5日に鹿児島で、2月20日に札幌で、2月25日に宮崎で開催した件、また今後は3月19日に那覇で開催予定の件に関する報告があった。さらに名古屋(中高)は準備中、札幌は調整中。
2. 8月の夏休み経済教室の予定については、名古屋で1日(中)と2日(高)、福岡で4日(高)と5日(中)、大阪で8日(高)と9日(中)、東京で11-12日(中学)と17-18日(高)。札幌の「金融経済教育(仮題)」については調整中。
3. 『経済セミナー』の連載「中学・高校の経済学教育」について、新井先生より4・5月号用の原稿「中高の経済教育は今」のゲラが回覧された。
4. 新井先生より配布資料のレポートと入試プロジェクト検討対象大学(案)にもとづき、4月2日開催予定(於日大経済学部7号館講堂)のシンポジウムと講演「大学入学試験と経済教育」について報告があった。講演は飯田康之教授の「経済教育に経済学はいらない」というテーマで、またシンポジウムは「大学入試問題の評価」というテーマで行われるが、そこで取り上げられる入試プロジェクトの報告内容について詳しい説明があった。
5. 歴史と地理で経済学と関連あるテーマについて、新井先生より配布資料にもとづき、中学と高校の場合について、特に教員が苦手とする領域を中心にしたテーマのリストに関して説明があった。これに対して、宮尾より、配布資料「歴史と地理で教える経済学(1)」にもとづいて、センター試験の問題から見た印象により、歴史は比較的限られた時代の限られたテーマ(金解禁など)について特に経済学の理解が重要であるのに対して、地理は逆に幅広く産業立地、都市問題、世界の資源や産業や環境といった分野で経済学的な分析が有用との指摘があった。これらの報告にもとづいて、今年はずまず歴史に関係する経済学を取り上げることとなった。
6. 上記に関連して、新井先生より筑波大学での集中講義の体験の報告があり、2日にわたって教員志望の修士の院生に経済学の講義をして、受講者から「目から鱗が落ちた」といわれるほど成果が上がったとのことであった。ただし理解しづらい項目としては、余剰と死荷重、需要供給曲線の導き方、需要量と需要(曲線上の変化とシフト)の違いなどがあったとのこと。東京部会参加者よりその講義に対する感想やコメントがあり、歴史や地理の教員が持つ傾向のある誤った経済学の考え方を正すことは大きな意味と好ましい効果があるという指摘がなされた。
7. 宮尾より、「余剰分析」が分かりやすく説明してある参考書の紹介があった。詳細については、経済教育ネットワークのHPの「オープン討論室」への宮尾の投稿を参照。

(文責: 宮尾尊弘)

次回開催予定: 4月14日(木) 19:00~21:00、日大経済学部3号館4階会議室。

主な議題として、8月の経済教室の内容および12月の年次大会について具体的な検討を行う。